

# 常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年9月17日(金)

その2

## ◇ 臨時部活動集会にて

先週、10日(金)の朝の時間、陸上部に所属する4年生から6年生の全児童を集めて「臨時部活動集会」を行った。内容は「コロナ禍での緊急事態宣言の再認識」と「30日(木)の岡崎市小学校陸上大会について」である。

対象が上学年であること、さらに内容が本来であれば中止も視野に入れるべき緊急事態宣言下の部活動ということもあって厳しい話となったが、きりりと引き締まった児童の表情から、話を真摯に受け止めようとする胸中が読み取れた。

当初、今回の話は、部活動顧問の長である体育主任に任せようと考えていた。方向転換して自分が担ったのには理由がある。「話のねらい」があるからである。

- ①【緊急事態宣言の自己再認識（※自分の命は自分で守る意識）】
- ②【陸上大会参加の有無についての自分の判断】
- ③【自分の考え(意思)をもとに親と相談し、助言を得て自分で方向を決める】
- ④【判断⇒決定⇒申告 行動の責任の自覚(自己の受け止め)】
- ⑤【出場を決断した場合、大会出場に向けた自身内での心構えの確立】
- ⑥【出場した場合、多くの人と交わる会場での自己衛生管理の自覚】

①から⑥に共通する観点、つまり「話のねらい」とは、子供に「自分で」を意識させることにある。この1点だ。

親に相談するのは自分。その前に自分の意思をはっきりさせておく必要がある。話の中で親からの助言もある。しかし、決めるのは最終的には自分。そのことがはっきり伝われば、親もその意思を尊重してくれる。ただし、自分で決めたことだから、その後のことは後悔しない。

休日をはさみ、自分の回答を担当に伝えるのだが、5・6年生の児童全員が、よどみなくはっきりと自分の意思を伝えることができたとのことだ。素晴らしい。

家での話し合いもきちんとできたとのこと。ご協力いただくとともに、子供の気持ちをいい方向に導いていただいた保護者の皆様に感謝申し上げたい。